

Osaka Metroが目指す 新しい交通のかたち

大阪市高速電気軌道株式会社
常務取締役 鉄道事業本部長

西野 肇

1. Osaka Metro中期経営計画で示す将来像

- 1-1. 中期経営計画～基本方針
- 1-2. 中期経営計画～戦略骨子（重点テーマ）
- 1-3. 現状と目指す姿

2. あたらしい交通の形としてのMaaSへの取組み

- 2-1. MaaSとは
- 2-2. Osaka Metroが目指す都市型MaaS

3. Osaka Metro Groupの考えるスマートシティモデル

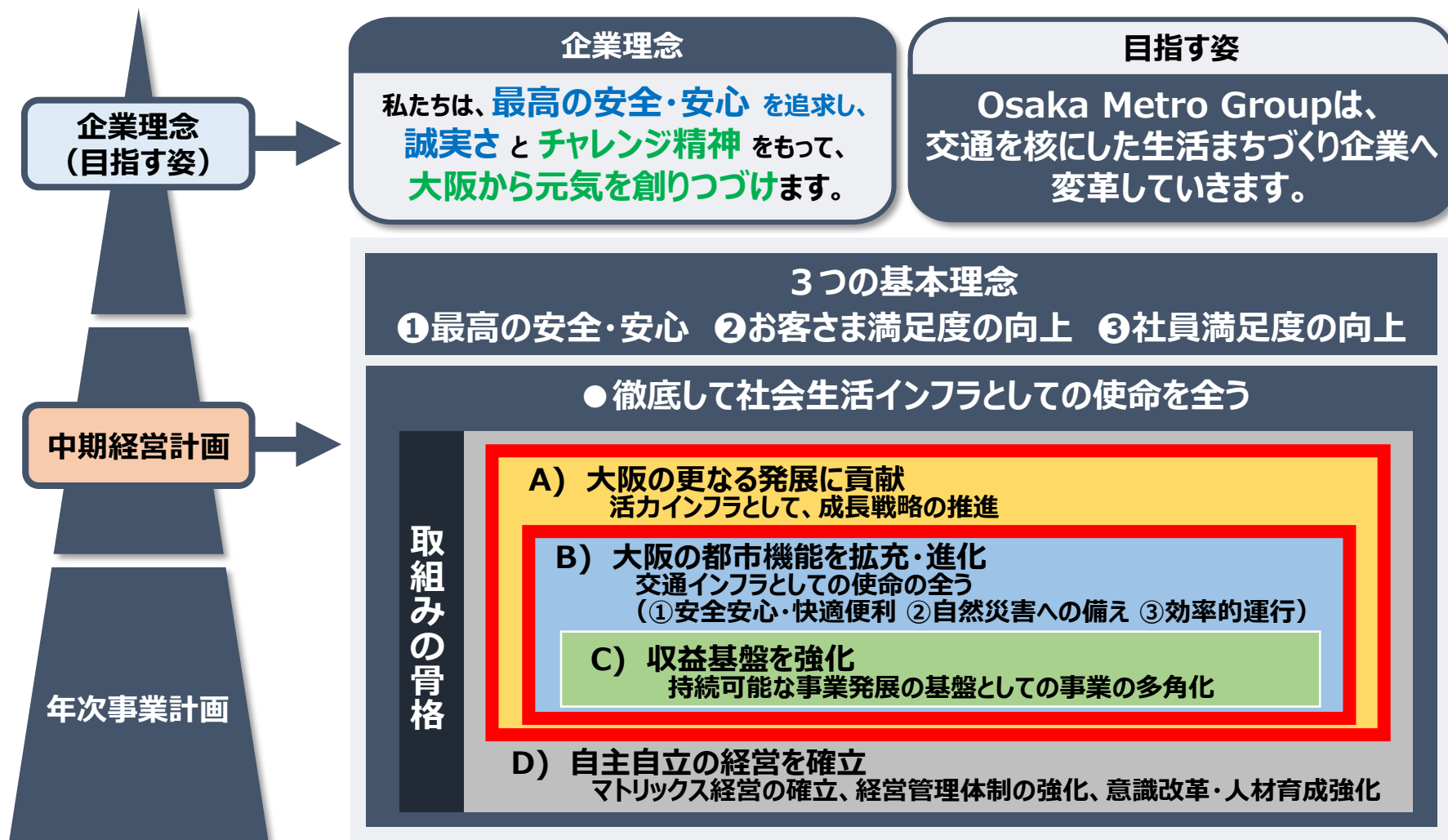
- 3-1. Osaka Metro Groupが考えるスマートシティモデル

4. （紹介）現在実施している取組事例

- 4-1. ICTサービスの普及例・・・顔認証による自動改札システム
- 4-2. 駅の大規模リニューアルの取組み

1-1 Osaka Metro中期経営計画 基本方針

民営化プランの趣旨に則り、大阪の新たな発展ステージへの貢献を目指し、かつ、万博成功を見据え、自主自立の経営による継続的な事業成長に邁進する。



1-2 Osaka Metro中期経営計画 戦略骨子（重点テーマ）

大阪の次世代型社会生活インフラの構築に向けて、先駆的な都市型MaaSの構築を軸に、既存事業を徹底強化すると共に、有機的に結合させて「デジタルマーケティング・MaaS・都市開発」に進化させ、新しい事業グループを確立する。

1) デジタルマーケティングの推進

⇒社内外との事業シナジーの創出（お客さまの移動・行動データに基づき上質な体験/生活を提案）

2) MaaSの推進

⇒次世代交通・・・利便性・快適性を向上し、移動ストレスを排除し、シームレスな移動を提供

3) 都市開発（沿線開発）の推進

⇒沿線を大きく3つのエリアで分け、テーマ性を持った開発を行う

4) 既存事業の進化

⇒「最高の安全・安心」「お客さま満足度の向上」に向けた取組みを加速

5) 経営の質的向上

⇒人・組織づくり、ガバナンス、環境・社会活動、DX（デジタルトランスフォーメーション）整備等

1-3 現状と目指す姿 ～企業環境の変化

勤務形態

今までは



これからは…

デジタル化、AI社会の推進



+

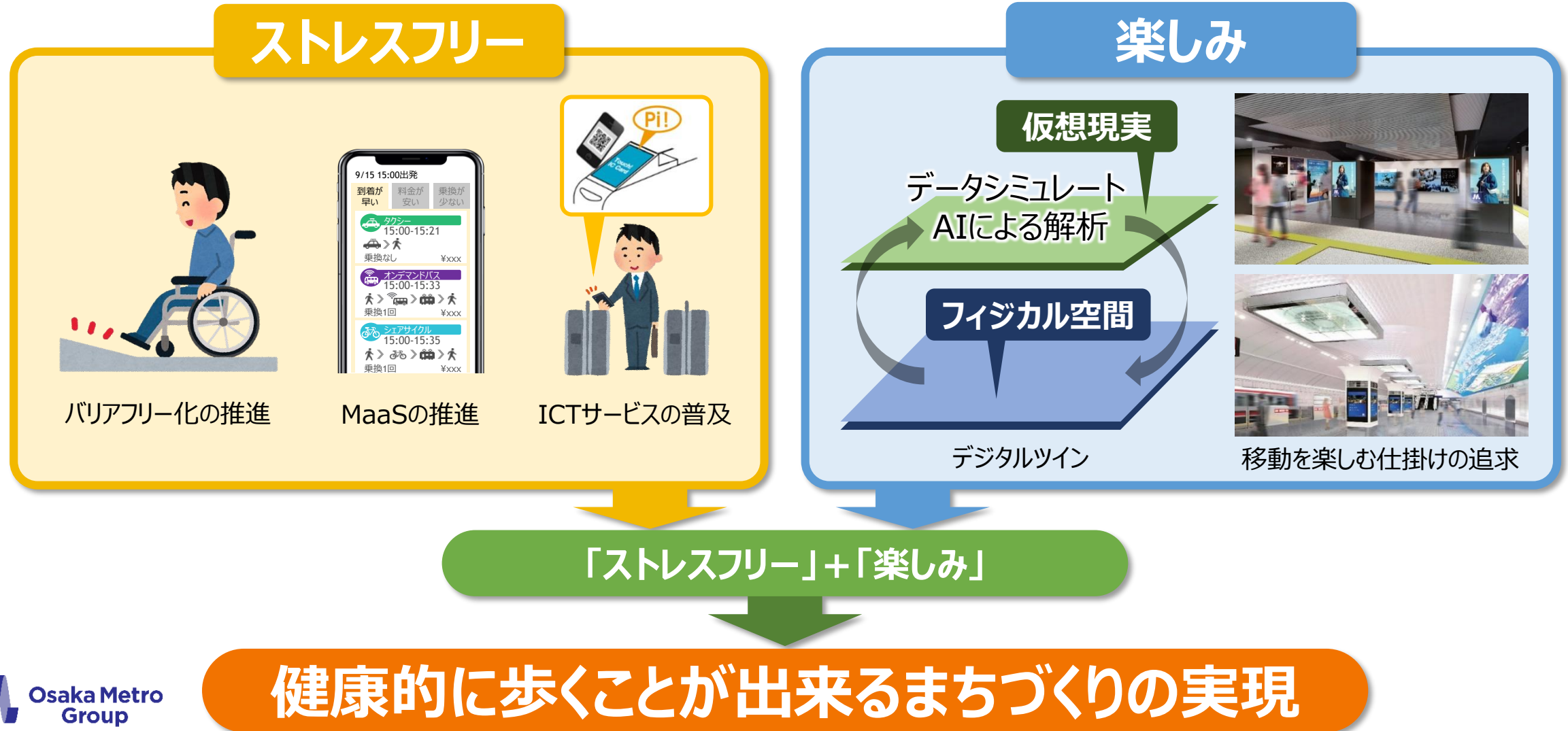
コロナウイルス
感染症

在宅勤務、サテライトオフィスでの勤務
～会社までの移動がなくなる～



1-3 現状と目指す姿 ～目指す姿

減少する沿線人口やデジタル化による需要減少に対して、生き残りをかけて沿線の魅力を維持・向上させ、ICTサービス等の充実を図っていく必要がある。



2-1 MaaSとは・・・Mobility as a Service

“MaaSとは、ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念である。



MaaS

今ある交通網に、最新の技術や情報を取り入れ、交通課題の解消、また便利に利用していただくこと。

**お客さまの移動を
トータルなサービスとして
提供します。**

(参照：国土交通省 国土交通政策研究所 機関誌
PRI Review 69号 パースペクティブ)

2-1 MaaSとは・・・Mobility as a Service

交通手段ごとに特徴がある。
様々な特徴を持った交通サービスを統合し、「出発地」～「目的地」まで繋ぎシームレスにサービスとして提供をする。



様々な特色を持った交通サービスを統合し、
「出発地」～「目的地」まで待ち時間がない、シームレスに提供する交通サービスの実現。

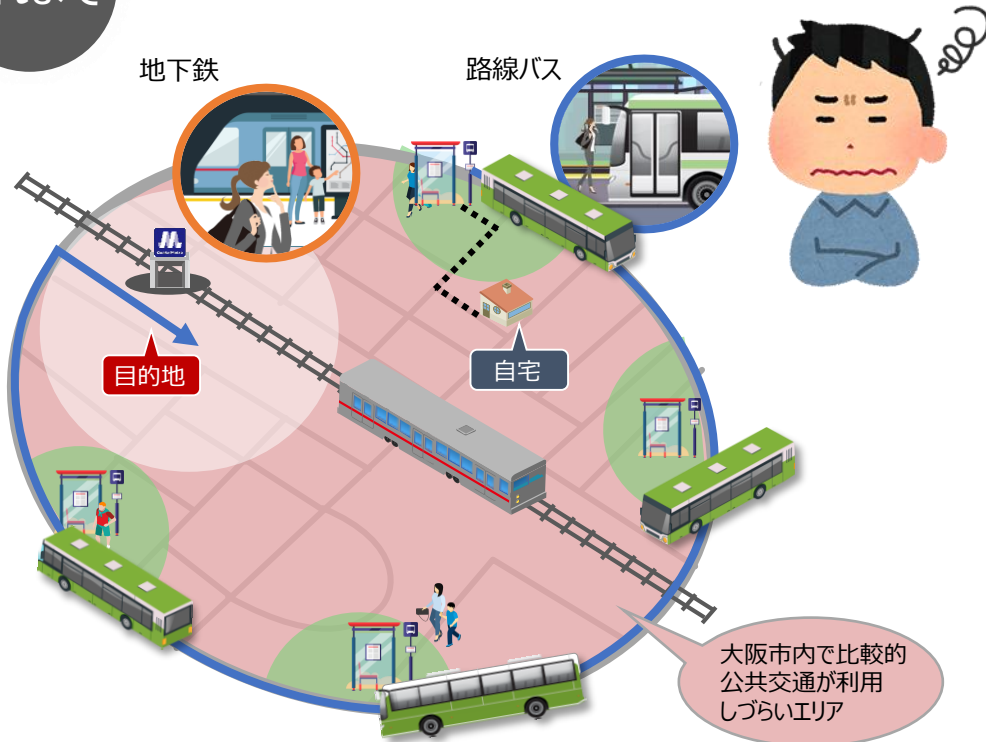


2-2. Osaka Metroが目指す都市型MaaS

来ていただく交通からお客さまのニーズに応じて迎えに来る交通への大変革

これまで

お客さまに駅・バス停まで来ていただく／定時運行

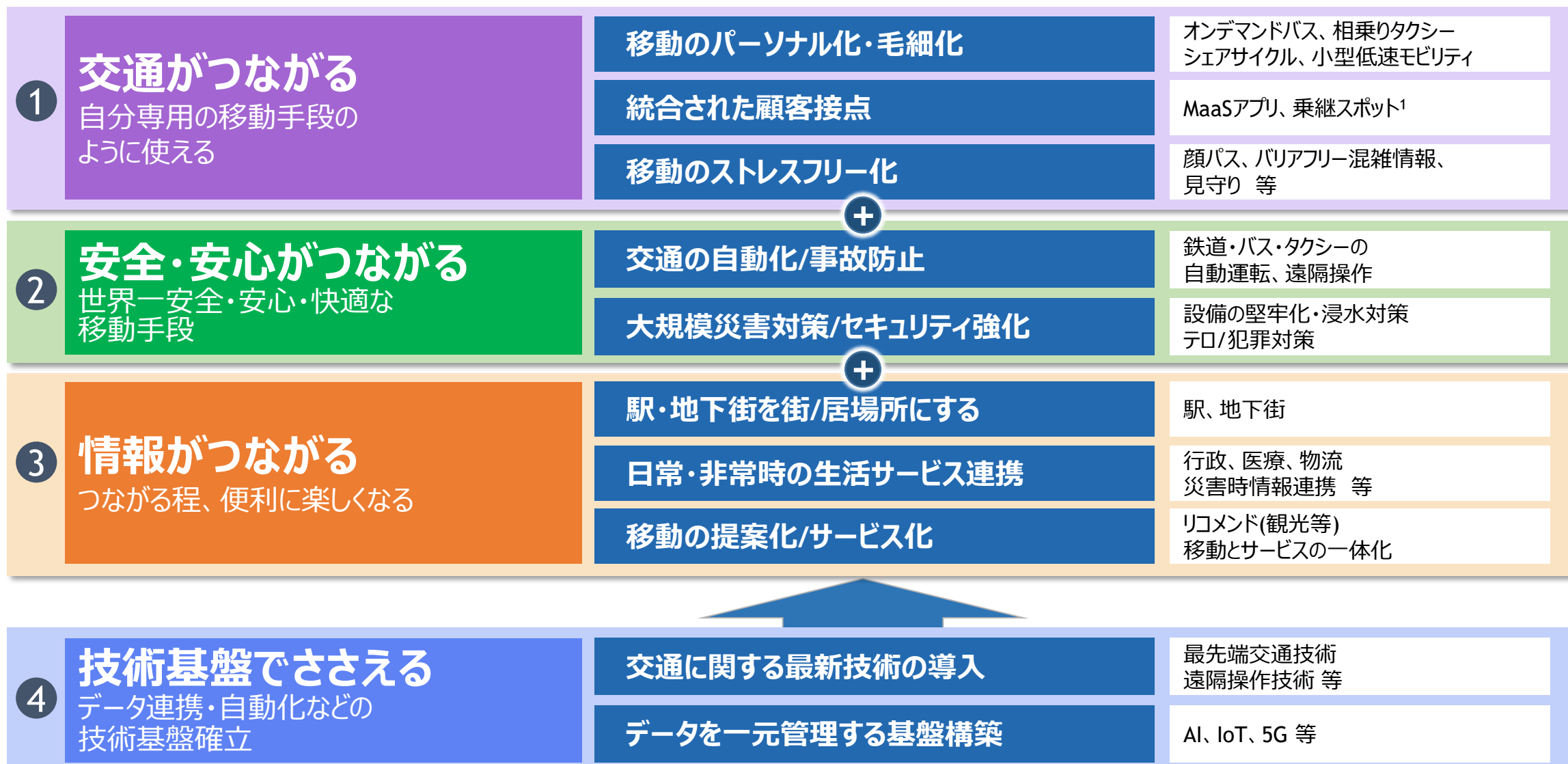


これから

お客さまのニーズに応じて迎えに行く／待ち時間のロス改善
シームレスでストレスフリーな移動を実現



2-2. Osaka Metroが目指す大阪都市型MaaS(観光・郊外型MaaS含む)



1.異なるモビリティ間の乗り継ぎのための場所 ※ 検討中のものも含む

3-1. Osaka Metro Groupが考えるスマートシティモデル

特定エリアで大阪都市型MaaSの各要素を実装し、
エリア全体で環境に優しい自律型のエコシステムをつくりあげる。

1 全移動が公共交通で完結

2 犯罪・事故ゼロ

3 社会生活に必要な情報がつながる

4 環境に優しい都市機能でささえる

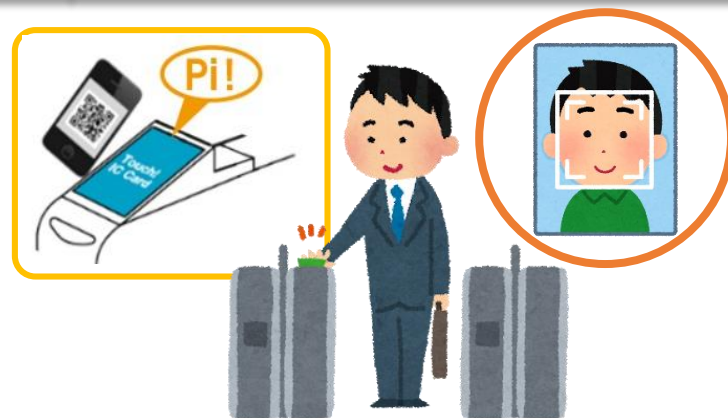


4-1. ICTサービスの普及例・・・顔認証による自動改札システム

顔認証システム

チケットが必要なく、改札を通ることができ
スムーズかつストレスフリーな環境を作る。

QRコードや顔認証といった
様々な認証システムに対応した
多機能の改札機を整備していく。



全駅にチケットレス改札の導入

全社員を対象に実証実験

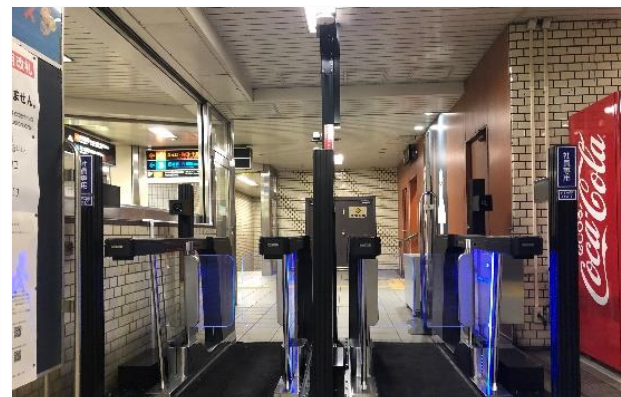
2024年度全駅導入予定



ドーム前千代崎



森ノ宮



大国町



動物園前

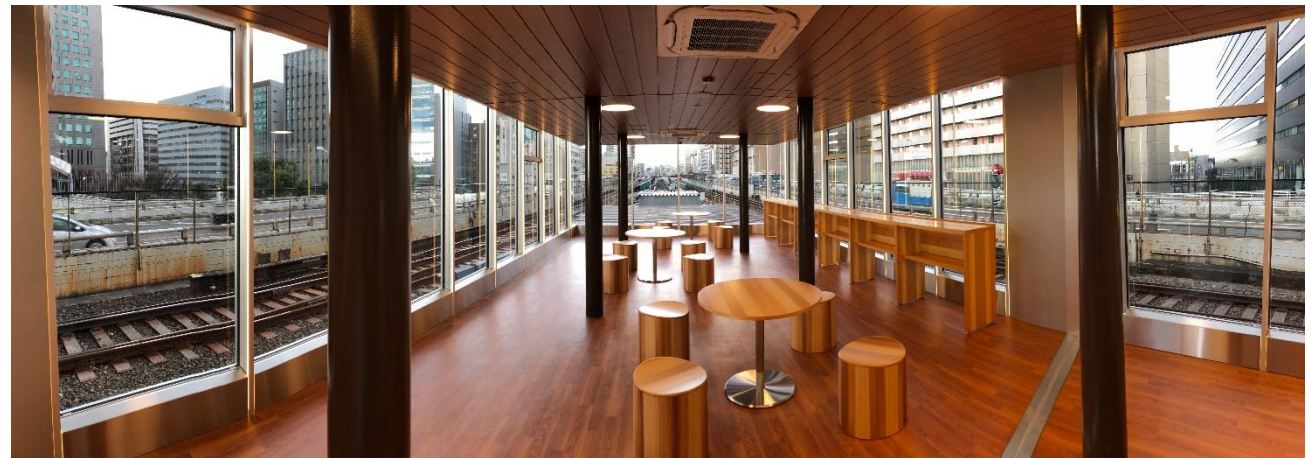
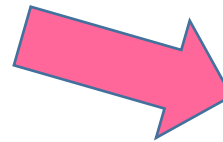
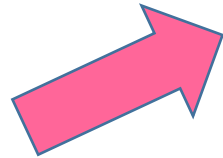
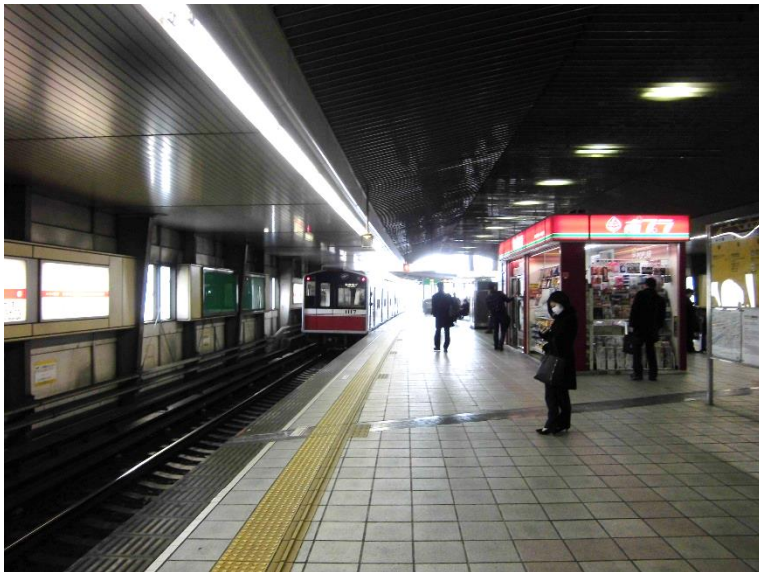
(上記駅に設置して実証実験中)

4-2. 駅の大規模リニューアルの取組み

地下空間のリニューアル

快適な移動の提供のみならず、利用することが目的になるような駅毎の特徴を演出し、賑わいを創出することによって、地下空間の魅力度を向上し、大阪の更なる活性化に寄与。

新大阪駅（左：リニューアル前、右：リニューアル後）





Osaka Metro Group

本資料に掲載されている情報のうち、過去の実績以外は将来の見通しであり、
これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。
従って、実際の業績はこれらと異なる結果になる場合がありますことをご了承ください。